

地産地消、益城町を食す

町婦人会による米消費拡大料理講習会

米消費拡大の一環として、町公民館で3月29日、町婦人会が、町区長会や町議会議員など52人を招待し、手料理を振る舞いました。

米を中心とした料理を前日から準備を行い、当日も朝8時から調理を始め、会場をバイキング形式で仕上げました。使用した食材は全て町内産の米や野菜。

富田セツ子婦人会長は「米消費拡大と地産地消が目的で全て手づくり。おいしく皆さんに食べていただき交流を深めたい」と話しました。

田上由美子栄養士の指導のもと、五穀米を使ったおにぎりや味噌汁、鶏のから揚げ、煮物など、豪華な昼食となりました。



並べられた手料理を取り分ける参加者



参加者に感謝を述べる竹原会長(写真左上)

身近にある久遠の歴史

健軍三町内老人会がDVD作成

町交流情報センターで3月27日、「久遠の里」の上映会が行われました。

この作品は、熊本市健軍三町内老人会DVD研究会が企画・作成したもので、一目見ようと約100人の参加がありました。同会は昨年4月から町の「飯田山」の史跡をとりあげ、町生涯学習課や歴史学研究会長松野國策氏の協力のもとDVDを作成しました。

同会長の竹原博規氏は「身近にありながら深くを知らない飯田山の史跡にスポットをあてました。飯田山常楽寺、久遠の歴史を紹介する一助ともなれば幸い」と話し、試写会に訪れた参加者に作成したDVDを提供しました。

町公民館講堂で3月20日、防災・救急法合同研修が行われました。地域赤十字奉仕団(町婦人会)が主催し、町区長会へ呼びかけ約80人が参加。講師の日赤県支部の東博子氏のもと、ハイゼックス炊飯や応急手当を体験しました。

ハイゼックスとは、特殊な袋のことで、米と水を入れ、口を閉じ、熱湯に入れると米が炊ける防災品。研修では、試食を兼ねて炊飯を行いました。応急手当は負傷者の搬送法や三角巾での止血法を学びました。参加者は、「非常に備えてとても有意義な研修でした」と話していました。

婦人会の富田セツ子会長は、「この取り組みを続けていきたい。継続することに意味がある」と話しました。



非常時に役に立つハイゼックス炊飯

非常なことを日常へ

防災・救急法合同研修